

環境活動レポート

[2020 年度]



2021 年 8 月 20 日発行

株式会社 マルキ産業

本レポートの対象期間 2020 年 5 月～2021 年 4 月

1、事業概要

1. 事業者名

株式会社 マルキ産業
代表取締役 瀧田 武 司

2. 所在地

本社 栃木県塩谷郡高根沢町上高根沢 1 9 6 7 - 7
TEL : 0 2 8 - 6 7 5 - 2 8 7 0
宇都宮事業本部 栃木県宇都宮市平出町 2 8 0 - 2
TEL : 0 2 8 - 6 6 0 - 4 9 0 6

3. 事業内容

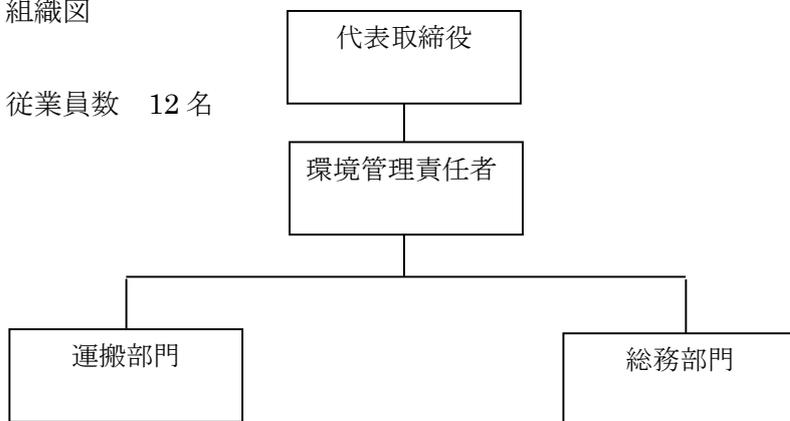
医療廃棄物収集運搬業、産業廃棄物収集運搬業、一般廃棄物収集運搬業
紙おむつ販売・回収、院内感染対策空気清浄機等の販売、機密文書等出張細断事業、

4. 事業規模

設立年月日 1988 年 4 月 1 日
資本金 10,000,000 円
売上高 4.26 億円 (2020 年度)
敷地面積 900 m²

5. 組織図

従業員数 12 名



6. 環境管理責任者 瀧田 有 香

7. 連絡先

担当 瀧田 有 香 0 2 8 - 6 6 0 - 4 9 0 6

※当社は全ての組織、全ての事業活動を認証・登録の対象範囲として運用している。

8 保有許可一覧表

	許可	許可番号	許可年月日 (最初の許可 年月日)	有効期限	産業廃棄物													特管	一般	
					燃え殻	汚泥	廃油	廃酸	廃アルカリ	廃プラスチック	紙くず	木くず	繊維くず	金属くず	ガラス・コンクリートくず	鉱さい	がれき類	感染性廃棄物	ごみ・粗大ごみ	
収集運搬	栃木県	950073484	平12.11.27	令6.11.26															○	
	栃木県	900073484	平13.6.21	令4.12.6	○	○				○	○	○	○	○	○	○	○			
	茨城県	851073484	平12.11.22	令6.11.21															○	
	埼玉県	1100073484	平30.1.26	令5.1.25		◎	○	○	○	◎				◎	◎					
	宇都宮市	第374号	平30.7.28	令4.7.27																○
	さくら市	第973号	平31.1.10	令5.1.9																○
	高根沢町	第84号	平30.8.6	令4.8.5																○

当社は感染性廃棄物(栃木県・茨城県)の収集運搬について 2012 年 5 月に優良性認定事業者となっており、産業廃棄物(栃木県)の収集運搬について 2015 年 12 月に優良性認定事業者となっている。

産業廃棄物の種類に◎表示がある場合は水銀使用製品産業廃棄物を含む。

10. 収集運搬車両

車両の形状	運搬品目	自動車登録番号	最大積載量
バン(冷凍車)	医療廃棄物 一般・産業廃棄物	宇都宮 800 す 54-87	2.5 t
バン(冷凍車)	医療廃棄物 一般・産業廃棄物	宇都宮 800 す 64-56	3 t
バン(冷凍車)	医療廃棄物 一般・産業廃棄物	宇都宮 800 す 54-43	3 t
バン(冷凍車)	一般廃棄物 産業廃棄物	宇都宮 800 す 1-28	1.3t
塵芥車	一般廃棄物	宇都宮 830 さ 17-23	3.2t
塵芥車	一般廃棄物	宇都宮 830 せ 805	2.9t
小型移動式クレーン車	一般廃棄物 産業廃棄物	宇都宮 100 せ 76-12	2.2 t
バン(冷凍車)	医療廃棄物 一般・産業廃棄物	宇都宮 800 せ 15-76	2 t
小型貨物車	医療廃棄物 一般・産業廃棄物	宇都宮 800 す 76-56	1.2 t
バン(冷凍車)	医療廃棄物 一般・産業廃棄物	宇都宮 800 す 96-19	2.95 t
塵芥車	一般廃棄物 産業廃棄物	宇都宮 800 せ 505	2.6t
塵芥車	一般廃棄物 産業廃棄物	宇都宮 800 せ 2353	2.95t

<混載不可>

バン(工業作業車)	機密書類	宇都宮 800 す 70-61	4 t
-----------	------	-----------------	-----

11. 処理の実績（2020年4月～2021年3月） 実績報告書による。

収集運搬		
感染性産業廃棄物		1,701,886 kg
産業廃棄物	廃プラスチック	51,244 kg
	汚泥	497 kg
	木くず	5,515 kg
	金属くず	43,925 kg
	水銀使用製品 廃プラスチック	113 kg
	ガラス及び陶器くず	15,065 kg
	水銀使用製品 ガラス陶磁器くず	200 kg
	水銀使用製品 金属くず	77 kg
一般廃棄物	焼却ごみ	592,536 kg

2、環境方針

環境経営方針

《基本方針》

我々社員は、安全かつ安心して廃棄物関係の業務を任せいただけるような会社を目指します。また、我々に関わった人々が一人でも多く環境問題を意識してもらえるよう、廃棄物処理に関わる様々な取組みの発信及び周知徹底を努め継続的な改善に努めます。

《環境方針》

基本理念に基づき、地球環境の保全と調和を目指し、持続的発展と、社会責任を果たし貢献する活動を社員一同で実現して参ります。

- 1、 当社は、環境関連法令及び廃棄物処理法を遵守します。
- 2、 収集運搬の燃料節減を目指し、二酸化炭素の削減を推進します。
- 3、 節水・節電を徹底し、排水量及び電力量の削減を推進します。
- 4、 事業活動における運搬車両、及び機器等の効率化を図り、省資源、省エネルギーに取り組みます。
- 5、 排出事業者が廃棄物の分別を適正に行えるよう啓蒙活動に取り組み、環境保全に努めます。
- 6、 環境方針を当社及び関係者に周知徹底し、社外にも開示します。

2020年9月18日

株式会社マルキ産業

代表取締役社長 瀧田武司

3、環境目標とその実績

目 標		2020 年度目 標 (2020.5~2021.4)	実 績	評 価 (基準値との差)
二酸化炭素排出 量の削減 (kg-CO ²)	医療・産業廃棄物収集運搬 車両の燃費向上 (km/ℓ)	2018 年度基準 5.56 ↓ 4%向上 5.78	5.50	基準比 1.07%低下 (-0.06) 目標 未達成
	一般廃棄物収集運搬 車両等の燃費向上 (km/ℓ)	2018 年度基準 5.84 ↓ 4%向上 6.07	5.56	基準比 4.79%低下 (-0.28) 目標 未達成
	営業車両の燃費向上 (km/ℓ)	2018 年度基準 9.85 ↓ 4%向上 10.15	9.88	基準比 0.3%向上 (+0.03) 目標 未達成
	電気使用量削減 (kWh)	2018 年度基準 14,897 ↓ 4%削減 14,301	20,029	基準比 1.3%減少 (+5132) 目標 未達成
		2018 年度基準 100,167 ↓ 3%削減 97,161	114,741	基準比 12.7%増加 (+14574) 目標 未達成
販売戦略	廃棄物分別コンサル活動	1ヶ月1件	1ヶ月1件	目標 達成
廃棄物排出量 削減	ミスコピー削減 (枚)	2018 年度基準 210 ↓ 3%削減 178	123	基準比 70.7%減少 (-87) 目標 達成
水使用量削減	節水 (m ³)	2018 年度基準 48 ↓ 5%削減 46	44	基準比 9.09%減少 (-4) 目標 達成

・電気の排出係数は東京電力の 0.462 を使用した。

二酸化炭素排出量の推移

	2016 年度	2017 年度	2018 年度	2019 年度	2020 年度
kg-CO ²	86,556	100,057	100,167	98,779	114,741
購入電力の排出係数	0.531	0.531	0.531	0.462	0.462

4、環境活動の内容

(1) 二酸化炭素排出量削減

①(医療・産業・一般廃棄物) 収集運搬・出張細断車・営業車両の燃費向上

- ・やさしいアクセル操作(最初の5秒で時速20km目安)
- ・エンジン始動時アクセル踏み込まない。
- ・「波状運転」はせず、一定の速度で走るようにする。
- ・「予知運転」を心掛ける。
- ・車間距離に余裕をもって走行している。
- ・早めのシフトアップを心掛ける。
- ・赤信号や停止位置が分かったらエンジンプレーキで惰力走行する。
- ・坂道や減速時に惰力走行を心掛ける。
- ・気象条件に応じて社内の風量・温度を適切に管理する。
- ・待ち合わせ・荷物積み下ろし時はアイドリングストップ。
- ・タイヤの空気圧を適切に保つため、確実な点検・整備を行っている。
- ・オイルの量が、オイルレベル・ゲージの範囲内にあるか点検するとともに、定期的に交換。

②電気使用量削減

- ・事務所の不在時の消灯や使っていない場所の消灯を徹底する。
- ・パソコン、FAX未使用時は省エネモードにする。
- ・エアコンの温度管理及び時間別使用を徹底する。
- ・エアコンフィルターを清掃する。
- ・ブラインドをうまく活用する。

(2) 廃棄物排出量削減

- ・コピー時はサイズ設定を確認し、印刷時は設定を確認する。
- ・印刷時はできるだけプレビューで確認して行なう。
- ・できるだけ両面印刷を行なう。
- ・裏面コピーを心がける
- ・FAXはできるだけ、Eメールでお願いする。
- ・失敗した紙はメモに再利用する。

(3) 水使用量削減

- ・水の出しっぱなしに注意する。
- ・水を出したとき必要以上に出さない。
- ・洗いものはなるべくまとめて洗う。
- ・節水シールを貼って啓蒙する。

(4) 環境保全(廃棄物分別コンサルティング活動)

- ・取引先が廃棄物分別を適切に行い、適切に管理できるよう促進し、環境保全に取り組む。

5、環境活動の取組結果の評価と今後の取組

(1) 二酸化炭素排出量の削減

①医療・産廃収集運搬車両の燃費向上

基準年に対して1.07%低下し、目標は未達成であった。

良かった点としては、新しく取り入れたエコドライブのマニュアルに沿って、毎月チェックすることもあり具体的に意識して運転をすることができた。

未達成の要因としては、夏場・冬場のエアコンの多用である。エアコン・暖房を使用するとガソリンの減る量も多くなっていた感覚がある。

煽り運転の疑いで苦情が入ってしまったことや、ドライブレコーダーの動画を確認すると急発進等あり改善する部分が見受けられた。

今後も燃費削減を意識しエコ運転に取り組む。

②一般廃棄物収集運搬車両の燃費向上

基準年に対して4.79%低下し、目標にも至らなかった。

車両定期点検の実施もわすれることなくでき、また日々の実施内容がよく取組んでいた。夏場・冬場のエアコン・暖房使用は意識が足りなかったように思う。

急いでいるときに急発進はアクセルを踏み込んでしまうこともあった。

今後も、燃費達成を目指し、引き続きエコ運転等の取組を心がけていく。

③営業車両の燃費向上

基準年に対して0.3%向上したが、目標には至らなかった。

よかった点としては、安全運転を心掛けることができ、

定期点検も怠ることなくできた点である。

今後も暖房・エアコン使用には気を使いながら燃費削減に取り組んでいく。

④電気使用量の削減

基準年に対して25.6%増加し、目標も未達成であった。

冷暖房に関しては、服装で調節するなどして徹底することはできた半面、夏場など外出時でも、帰ってきた運転手が暑くないようつけっぱなしにすることもあった。

大幅な増加の原因として、昨年に引き続き今季途中（12月）から更に事務所として使用箇所が1ヶ所増加したので、来年の中期目標策定時では基準年の見直しを2021年度データを基準とする必要がある。

今後も電気の使用削減を心がけていく。

(2) 廃棄物排出量削減（ミスコピー減少）

基準年に対しては70.7%削減し、目標も達成できた。

取り組みの多くはできていた。メモで再使用があまりできなかったのも、なるべく再使用していく。

今後とも意識して取り組んでいく。

(3) 水使用量の削減

基準年も目標もクリアすることができた。出しっぱなしに注意することができていた。今後もまとめ洗いなどを意識し節水をこころがけていく。

(4) 環境保全（廃棄物分別のコンサルティング活動）

2020年2月から本格化したコロナ禍により、毎月問い合わせがあり、分別方法の対応が多かった。12月からは取引先病院においてクラスターの発生や、新型コロナの検査施設等、分別や廃棄方法などの対応で目まぐるしかったが、適切に案内できた。

6、中期目標（2019年度～2021年度）

	取 組	基準値 2018 年度	2019 年度目標 (2019. 5～2020. 4)	2020 年度目標 (2020. 5～2021. 4)	2021 年度目標 (2021. 5～2022. 4)
二酸化炭素 排出量の削減 (kg-CO ²)	医療・産業廃棄物 収集運搬車両の 燃費向上 (km/ℓ)	5. 56	3%向上 5. 72	4%向上 5. 78	5%向上 5. 84
	一般廃棄物収集運 搬車両の燃費向上 (km/ℓ)	5. 84	3%向上 6. 02	4%向上 6. 07	5%向上 6. 13
	出張細断車 燃費向上 (km/ℓ)	5. 39	2%向上 5. 50	3%向上 5. 55	4%向上 5. 61
	営業車両の 燃費向上 (km/ℓ)	9. 85	2%向上 10. 05	3%向上 10. 15	4%向上 10. 24
	電気使用量削減 (kWh)	14, 897	3%削減 14, 450	4%削減 14, 301	5%削減 14, 152
			100, 167	2%削減 98, 163	3%削減 97, 161kg
廃棄物排出量 削減	ミスコピー減少 (枚)	210	10%削減 189	15%削減 178	20%削減 168
水使用量の削減 (m ³)		48m ³	3%削減 47	5%削減 46	7%削減 45
環境配慮項目		・上記の収集運搬車両の燃費向上			

※化学物質使用量削減の目標については、使用している化学物質がハンドソープ程度のものであることから、目標として取上げていません。

※二酸化炭素排出量の電気の排出係数は東京電力の0.531を使用した。

※2015年度を基準として中期目標を策定したが、燃費に関していえば車両の入れ替え増加が3台あったことから医療、一般は改めて中期目標を策定することが妥当と判断し、電気も使用場所の増加があったことからすべての基準を2018年度基準として、2019年度～2021年度の中期目標を策定した。

7、環境関連法規への違反、訴訟等の有無

2020年7月2日に環境関連法規の遵守状況をチェックし、違反はありませんでした。

また、関係当局からの違反等の指摘も過去にありません。

同様に、訴訟もありません。

苦情は、2020年5月に「トラック収集車に煽られた」という内容が1件ありました。

8、代表者による全体評価と見直しの結果

本年度は、昨年度に引き続きコロナ禍であったが、2017年度ガイドラインに沿い新たに目標として策定項目に掲げた、廃棄物分別のコンサルティングが生かされたことは大きかった。誰もが未知のウイルスに対する不安が大きい中、コロナ患者様病棟等から排出される廃棄物の分別について分別方法をお伝えする機会が多かった。実際に感染対策を講じながらの廃棄物回収は従業員も大変であったと思うが、該当する取引先との信頼関係はより強固なものになったのではないかと考える。

一方で、今年度は未達成も多かったことは反省すべき点である。

2019年は車両入れ替えが2台、2020年も増車が1台あり、2022年からの中期目標は基準年の見直しが必要と考える。

また、電気使用量に関しても、新たな事務所棟使用場所で、2019年、2020年と1ヶ所ずつ増設したため、2022年からの目標と中期目標も基準値見直しは必須である。

引き続き欠かさず行っている車両の定期点検に加えて、今年度からエコ運転のチェックシートを新たに作成し、1人1人が毎月末に振り替える機会を設けたが、具体的に12項目を毎月目にすることで、エコ運転の意識付けに繋がったように思う。今後とも環境保全・環境経営へ繋がることを期待する。